



国際バカロレア（IB）の概要

『国際バカロレア(IB)教育推進動画(You Tube)』
(文部科学省IB教育推進コンソーシアム制作 6分27秒)



国際バカロレア(IB)とは

国際バカロレア(Internasional Baccalaureate (以下「IB」という。))は、国際バカロレア機構(以下「IBO」という。)が提供する、特色的で発達段階に応じた一貫したカリキュラム、双方向・協働型の探究型学習(授業)を通じて、**主体的に学ぶ力やチャレンジ精神、深い知識、思いやりの心などグローバル化に対応した素養・能力を育成する教育プログラム**です。

発達段階に応じたプログラムがあり、そのカリキュラムを実践することで、IBワールドスクールの認定を受けることができます。

【IBが育成を目指す子ども像(学習者像)】

IBは、「**多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成**」を使命とし、「**国際的な視野を持つとはどういうことか**」を表した以下の**「10の学習者像」**に示す力の育成を目指しています。

【IBの10の学習者像】

探究する人 私たちは、好奇心を育み、探し研究するスキルを身につけます。ひとりで学んだり、他の人々と共に学んだりします。熱意をもって学び、学ぶ喜びを生涯を通じて続けます。	心を開く人 私たちは、自己の文化と個人的な経験の真価を正しく受け止めると同時に、他の人々の価値観や伝統の真価もまた正しく受け止めます。多様な視点を求め、価値を見いだし、その経験を糧に成長しようと努めます。
知識のある人 私たちは、概念的な理解を深めて活用し、幅広い知識を探求します。地域社会やグローバル社会の重要な課題や考えに取り組みます。	思いやりのある人 私たちは、思いやりと共に感、そして尊重の精神を示します。人の役に立ち、他の人々の生活や私たちを取り巻く世界を良くするために行動します。
考える人 私たちは、複雑な問題を分析し、責任ある行動をとるために、批判的かつ創造的に考えるスキルを活用します。率先して理性的で倫理的な判断を下します。	挑戦する人 私たちは、不確実な事態に対し、熟慮と決断力をもって向き合います。ひとりで、または協力して新しい考え方や方法を探究します。挑戦と変化に対して、機知に富んだ方法で快活に取り組みます。
コミュニケーションができる人 私たちは、複数の言語やさまざまな方法を用いて、自信をもって創造的に自分自身を表現します。他の人々や他の集団のものを見方に注意深く耳を傾け、効果的に協力し合います。	バランスのとれた人 私たちは、自分自身や他の人々の幸福にとって、私たちの生を構成する知性、身体、心のバランスをとることが大切だと理解しています。また、私たちが他の人々や、私たちが住むこの世界と相互に依存していることを認識しています。
信念をもつ人 私たちは、誠実かつ正直に、公正な考え方と強い正義感をもって行動します。そして、あらゆる人々がもつ尊厳と権利を尊重して行動します。私たちは、自分自身の行動と一緒に伴う結果に責任をもちます。	振り返りができる人 私たちは、世界について、そして自分の考え方や経験について、深く考察します。自分自身の学びと成長を促すため、自分の長所と短所を理解するよう努めます。

【IBの教育プログラム】

◆プライマリー・イヤーズ・プログラム(PYP)

⇒ 主に幼稚園・小学校を対象とし、精神と身体の両方を発達させることを重視したプログラム。

◆ミドル・イヤーズ・プログラム(MYP)

⇒ 主に中学校を対象とし、これまでの学習と社会のつながりを学ぶプログラム。

◆ディプロマ・プログラム(DP)

⇒ 主に高校を対象とし、知識豊かで探究心に富み、思いやりと共に感する心を持つ人間を育成する2年間のみのプログラム。最終試験に合格すると海外大学を含む国際的に通用する大学入学資格を得ることができます。

IBの導入効果(研究結果から)

①『学校に行きたい』『友達と一緒に学びたい』と思える学校づくり

IBでは、実際の生活を例に用いた様々な「問い合わせ」に対して、友達や教員とディスカッションしたり、自ら考え、分析してまとめて発表するといった学習に取り組みます。児童生徒にとって楽しく学ぶことができるため、『学校に行きたい』『友達と一緒に学びたい』と思える学校づくりに効果が期待できます。

②南相馬市が目指すこどもの姿(育成する力)の実現に有効な手法

IBは、教科横断的で対話的な探究型学習等を通じて、知識・技能の習得、コミュニケーション力、多面的なものの見方、概念的理解を促し、答えのない問い合わせに対してどのように考え、選択していくか、それをどのように伝えるかといった思考力・判断力・表現力等を養う特色的なカリキュラムで、本市が目指すこどもの姿の実現に効果が期待されます。

③学習指導要領が掲げる『主体的・対話的で深い学び』の実践

IBは、プログラムに学習指導要領の内容を関連付け、両方の内容を満たして取組みます。なお、IBの授業では、児童生徒同士によるディスカッションを活発に行うことから、課題に対する新たな視点が生まれるなど、学びが深まり、主体的に学習に取組む態度が育成されます。

④郷土を支える人材育成(ふるさと教育の推進)

IBは、自らの国・地域に対する深い理解や奉仕活動を重視しています。ふるさと教育をカリキュラムに組込むことで、より深い学びにつなげることができ、ふるさとに誇りと愛着を持ち、郷土を支える人材の育成が図られます。

⑤教員の指導力向上

IBでは学習者中心の「考える」授業を行うため、教員は児童生徒の様子に応じて情報提供など支援を行ったり、議論の活性化を促す役割を担います。そのため各種研修への参加や探究型の授業実践により、学習指導方法の改善と指導力向上が期待されます。

⑥好事例の波及

教員は、国際バカロレア校での指導経験を通して、探究的な学びの指導力が高まり、人事異動等により、市内外へ教育手法の好事例の波及が期待されます。

国際バカロレア（IB）に関するQ&A集

Q.なぜ市はIBの導入を目指しているの？

⇒ 現代社会はAIなどの技術革新やグローバル化が急速に進展しており、将来の社会の姿を予測することが難しくなってきています。このような時代の中で子どもたちには、知識や技能だけでなく、「自ら興味を持って主体的に学び続ける力」「失敗を恐れずチャレンジする力」「多様な文化を理解・尊重する力」「コミュニケーション力」などといった力が必要とされています。しかし、知識や技能は「教える」ことができますが、どうしたらこのような力が身に付けられるのか、学校では日々考えながら取り組んでいます。IBはこのような力を「10の学習者像」に示し、育成することを目的にしており、指導の方法が明確に示されていること、国際的評価が高く文部科学省も推進していることから、市教育委員会では本市の子どもたちが未来社会を生きぬく力を身に付けるためIBの導入を目指しています。

Q.全国にIB校はどのくらいあるの？

⇒ IB認定校は令和6年3月時点で、世界160の国と地域に5,800校以上あります。日本国内では候補になっている学校を含めて240校（PYP109校、MYP55校、DP76校）あり、公立学校も含めて年々増加しています。

Q..IBはどんな教育プログラムなの？

⇒【小学校(PYP)】

PYPでは、IBのカリキュラムの枠組みに合わせ、生活科や総合的な学習の時間をベースに教科の指導内容を盛り込み、教科横断的で探究型の授業を行います。（国語や算数といった教科の授業は通常どおり行います。）

授業では、児童に実際の生活を例に用いるなどした様々な「問い合わせ」を投げかけ、その「問い合わせ」に対して、自ら調べ、友達や教員とディスカッションしながら学びを深めていきます。

学びの内容は特別なことや高度なものではなく、授業に盛り込む教科の内容も学習指導要領の指導事項です。

⇒【中学校(MYP)】

MYPでは、IBの示すカリキュラムの枠組みに合わせて、学習指導要領が示す各教科の指導事項を学んでいきます。中学校は小学校と異なり、より専門的に教科の授業の中で探究型の学習を行っていきます。

Q. 探究型の学習ってどんな学習？

⇒ 学習指導要領における探究型学習は、日常生活や社会の中にある疑問から自ら課題を見つけ、情報を収集、整理・分析して、まとめ・表現（発表）する学習です。

IBの探究型学習も基本的に同じですが、IBの学びは探究型学習の中でも概念的理解に重点を置いている点が特徴です。



Q. IBが重点を置く概念的理解ってどういうこと？

⇒ 例えば、サッカーのPKで大切なことはなんでしょうか？

PKはボールを蹴る力や技術だけでなく、『相手（キッカーやGK）の意図を読むこと』がとても大切です。この『相手の意図を読むことが大切』は、野球など他のスポーツにも共通して言えますし、さらに「人と話す」といったコミュニケーションをとる場合にも大切です。



このように、様々な事実から共通的な見方・考え方を見出し、理解していくことを概念的理解と言います。

概念的理解を身に付けることにより、ものごとを様々な側面から考える「多様なものの見方」ができるようになります。その理解を他の事案に転用して考えることができます。

小学校におけるPYPでは、これをわかりやすく理解するための思考ツール（7つの概念のレンズ（特徴・機能・変化・原因・関連・責任・視点））を使って授業を行います。

Q. 普通の学校とどう違うの？

⇒ IBと日本の学習指導要領の考え方には親和性があり、中でも小学校でのIB（PYP・MYP）は、IBが示すカリキュラムの枠組みに学習指導要領の指導事項やふるさと教育などを組み込んで授業を行うもので特別なことや高度な内容を教えるものではありません。

IBは「学ぶ内容」は普通の学校と同じですが、この「学ぶ内容」の「学び方（どのように学ぶか）」を示したガイドラインのようなものです。

現在南相馬市では、学習指導要領が定める教科等の指導に、ふるさと教育など市の教育振興基本計画に基づく様々な取組を加えて教育活動に取り組んでおりますが、これらの取組をより効果的に行うためにIBを導入し、その教育手法を活用したいと考えています。

【IBの取組イメージ】



Q. 学力に影響はないの？

⇒ これまで視察したIB導入校で、学力が低下したといった話は伺っておりません。

1年生「国語科・じどうしゃくらべ」

1年生で習うこの説明文は、児童の身近にある3つの自動車を取り上げ、「しごと」と「つくり」という二つの事柄の因果関係で述べる説明文です。

「～ように」「そのために」などの理由や目的を表す言葉を使い、自動車の「しごと」と「つくり」を関係づけて読み進める視点を持つように書かれています。

学びをとおして得た「知識」を活かし、まとめでは自分だけの「じどうしゃずかん」を作ります。

<問い合わせ>車にはどんな
「しごと」と「つくり」があるのかな

バス

知識



- ・人をたくさんせるしごと
- ・させきがひろいつくり

クレーン車

知識



- ・おもいものをつりあげるしごと
- ・じょうぶなうでがのびたり、ちぢんだりするつくり

トラック

知識



- ・にもつをはこぶしごと
- ・ひろいにだいのつくり

学んだ知識を
活かす

<学習のまとめ>
自分だけのじどう車ずかんをつくろう

わたしは『キッチンカー！』



- ・イベントなどでたべものつくってうるしごとをしています。
- ・そのために、にだいにはちょうどりすることができるよう厨房があります。

<学んだこと>
どんなつくりですか？
どんなしごとですか？

ぼくは『パトカー！』



- ・まちをまもるしごとをしています。
- ・多くの人に知らせることができます。ようにサイレンをならしたり、ランプを光らせたりするつくりになっています。

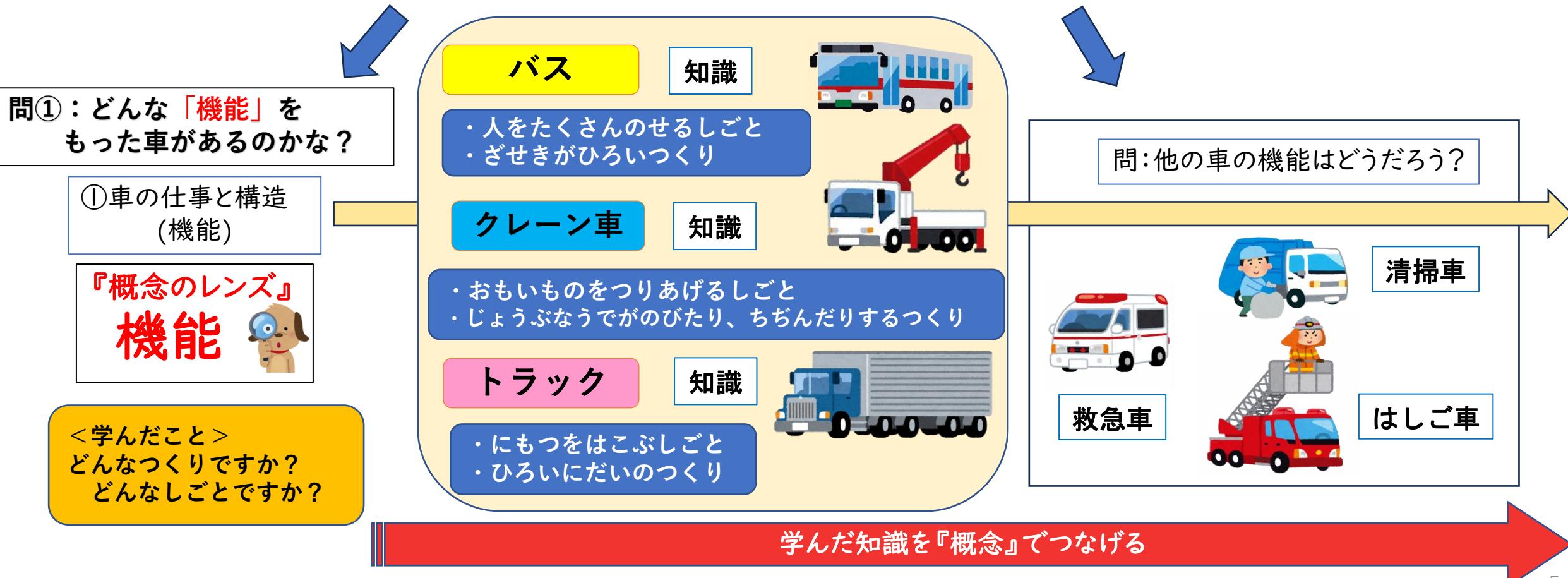
これまでの学びとどこが違うの？

学指+IB・探究

学ぶ内容は同じですが、学び方が違います。

⇒ IBでは『学びのテーマを設定』します。学習指導要領にもとづいて学んだ知識に、テーマに迫るための『概念』のレンズをプラスし、概念の転移を伴う探究的な学びを促します。

<学びのテーマ(例)> 文明の利器は私たちの生活に影響を与える



<学びのテーマ(例)> 文明の利器は私たちの生活に影響を与える

問②：これまで車にはどんな「変化」があったのかな？

②車が開発されて変わってきた理由
(変化)

エコ



問③：これらの車の生まれた「原因」は何だろうか？

③車が生活に与える影響(原因)

環境問題



『概念のレンズ』
変化



速さ

『概念のレンズ』
原因



利便性の追求

探究的な学びを通じて
獲得した概念的理解

そうか！自動車は私たちの生活を豊かにするためや、地球環境を守るために発達してきたんだ！

私たちの生活に影響を与えるって、いいこと悪いくこともあるんじゃない??

じゃあ、車以外にも調べてみようよ。



学んだ知識を『概念』でつなげる・次に生かす

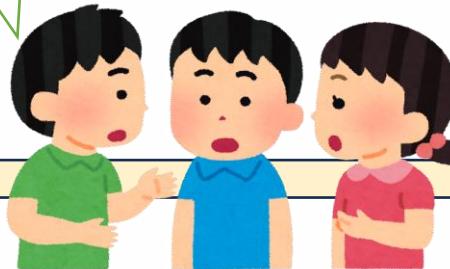
<学びのテーマ(例)>

文明の利器は私たちの生活に影響を与える

文明の利器と言えば「日用品」。便利な物が作られる裏側も知りたいな。

「新幹線」はどうしてこんなに速くなった？自動車と何か関連はあるのかな。

文明の利器は争いにも使われている。「平和な世界」を実現するにはどうしたらいいのかな。



さらなる『概念の転移』を促す

<学習のまとめ>

発表や話し合いを通じて獲得した概念を、より深め転移させていく



IBは、物事を1つの事象で捉えるだけでなく、「概念」でとらえ、思考を転移させながら再構築し、新たな価値につなげていく

Q.どのようにIBを導入していくの？

⇒ 市教育委員会では、まず小学校（PYP）から導入を目指したいと考えています。中学校（MYP）での導入は、引き続き教育プログラムの研究を行い、方針がまとまり次第お知らせいたします。

Q.全小学校にIBを導入するの？

⇒ IBを導入し、IB校としての認定を受けるためには、IBOへの申請費や年会費等の費用が必要になるとともに、導入校の教員には研究やカリキュラムの作成・実践等に大きな負担が生じるため、全小中学校での導入は現実的ではありません。

そのため、小学校（PYP）は、**小学校の中から1校を探究型学習の研究開発校として指定**し、認定を目指して取組みたいと考えています。

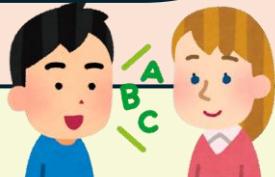
その後研究開発校での成果と実践を参考にIBを核とした本市独自の探究型学習のプログラムを開発し、**全小学校で効果的な探究型学習の実践を目指します。**

中学校（MYP）を導入する場合も同様の考え方で進めたいと考えています。

【IBの導入イメージ】



Q.英語が苦手でも大丈夫？



⇒ 小中学校でのIB(PYP・MYP)は日本語で行うので、英語が苦手でも問題ありません。しかし、グローバル化が進展する社会の中では、国際共通語としての英語力はとても重要です。そのため、市教育委員会では小中学校全体で英語力向上のための各種施策に取り組んでいます。

Q.高校（DP）はどうするの？

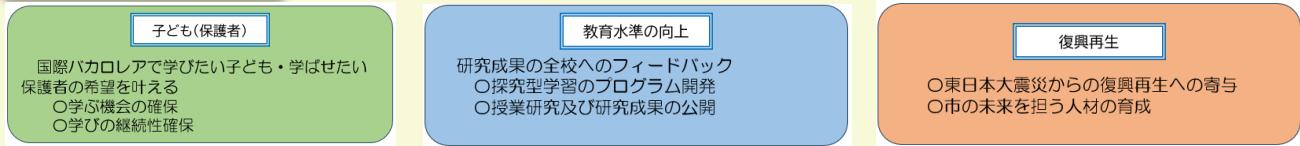
⇒ 高校（DP）の導入については、今後の検討課題として引き続き研究を行ってまいります。

Q.どの小学校を研究開発校に指定するの？

⇒ 市教育委員会では、小学校（PYP）の研究開発校について、その導入効果の最大化を図るため、以下の「3つの視点」と5つの「指定の考え方」を踏まえて比較検討し、総合的に判断して指定したいと考えています。

【PYP研究開発校指定の考え方】

3つの視点



指定の考え方

①児童数

本市の未来を担う人材の育成及び研究開発校として効果的な探究型学習プログラムを開発するためには、多様な授業の実践を通して、児童の「10の学習像」に示す素養・能力の育成効果を測る必要があります。そのため、研究開発校の指定は**児童数が多い学校**が望ましいと考えられます。

②学校の受入体制(教員体制)

探究型学習プログラムを開発し、市内全校で取り組むためには、国際バカロレアの指導方法を研究・実践しつつ、人事異動や公開授業を通して探究型学習の学びを拡大する必要があります。そのため、研究開発校の指定は**教員数が多く、安定した研究・実践が可能な教員体制がとれる学校**が望ましいと考えられます。

③小中の接続

国際バカロレアで学びたい子どもの学びの継続性を確保するとともに、小中の接続を踏まえた中学校における探究型学習プログラムの効果的な研究開発につなげるため、研究開発校は**小学校から中学校へ円滑に接続できる学校**が望ましいと考えられます。

④復興のシンボル(復興再生への寄与)

本市は震災の影響等により、生産年齢人口・年少人口が大幅に減少していることから、本市の未来を担う人材の育成や移住定住など、**復興に寄与するシンボルとなる学校**が望ましいと考えられます。

⑤通学のしやすさ

国際バカロレアの導入に当たり国際バカロレアで学びたい子ども、学ばせたい保護者の希望を叶えるとともに、移住定住の推進にもつなげるためには、区域外就学も視野に入れる必要があります。そのため研究開発校は**学区外からでも通学しやすい学校**が望ましいと考えられます。

Q.導入までどのくらいの時間がかかるの？

⇒ IB校として認定を受けるには、IBOから派遣されるコンサルティングに指導いただきながらカリキュラムを作成し、試行授業に取り組む必要があります。**IB認定校になるまでは2～3年程度の期間が必要になります。**